

伝えたい 残したい

20世紀 のうしく

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2300

乙戸川に架かる久野大橋

昭和15～16年(1940～1941年)



現在の久野大橋



未舗装の道路の両側に田園風景が広がっています。川に架かる橋には、向かって左の親柱に「乙戸」、右の親柱に「おはし」の文字が見えることから、現在の久野大橋付近の写真と考えられます。奥野地区は昭和30年代まで、人や荷物を馬が運搬していました。戦争中には奥野自走部隊という組織がつけられ、各集落に組合長を一人置いて馬車輸送の手配を行っていました。撮影時期から推測すると、橋の向こうに見えるのは、輸送用の馬車かもしれません。



「昔のうしく」の写真(とくに昭和40年代までの写真・東部地区の写真)を募集しています。

里山の樹木

問 都市計画課
☎内線2524

①真っ直ぐに立つ樹幹:ひたち野
みずべ公園 平成24年9月25日撮影

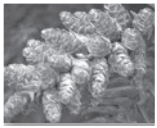


第37回

スギ

ヒノキ科(旧スギ科)スギ属の常緑針葉樹で、青森から屋久島まで分布します。自然林は極一部で、ほとんどは植栽林です。市内のスギも同様です。成長がよく樹高30～40mに達し、長命なので社寺などに巨木が見られます。樹皮は赤褐色で縦に裂け、葉は鎌状針形で冬期は赤褐色となります。花は2～4月に開花、雄花は淡黄色の楕円形で前年枝の先に穂状につき、雌花は緑色の球形で枝先に1個つきます。球果は球形で、秋に熟すと褐色になり裂けて種子を放出します。花粉症の源は、雄花が出す大量の花粉が風にとつて大気中に拡散するためです。幹は建築材、葉は線香の原料など多様に利用されます。和名は真っ直ぐ立つ「スグ(直)なる木」に由来します。

②雄花序と花粉:城中町スギ林
平成19年2月12日撮影



※牛久の里山樹木ハンドブック77ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。
【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章:羽賀正雄、写真:①戸塚昌宏・②渡辺泰)

「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)

文芸さろん | 睦月 |

星ひとつ天にとどめて年の暮れ	こよばあば
陸橋に立ち冠雪の富士見夕陽さす	岡村さん
想い出す冬晴れの朝るるりばた	
追われるようにひなたぼっこへ	井上さん
しばれる手ラジオ体操こちよく	山崎さん
夕陽さし白鳥浮かぶ牛久沼	和多田さん
冬の蜘蛛思案のあとは素早けり	高階さん
十和田湖の紅葉忘れぬ思い出深き	枝さん

<次回募集テーマは「冬」>

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など

【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1

「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512

E kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp

【記載事項】作品、氏名、電話番号

匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)

